

狀受有者中幾何の商船學校卒業者を包含するやの點なり。而して學校卒業者は其年悉く所定の甲種二等運轉士若は一等機關士の免狀を受有するに至るや否やは別問題なりと雖も其の平均卒業生數は大約四百四十五人にして其の詳細次の如し。

- 一、東京商船學校 百人
- 二、地方商船學校 二百三十人
- 三、私立養成所其他 百十五人

以上の諸表を綜合し現時の實況に徴するに毎年平均海技免狀受有者増加數は約二千四百十人にして之を免狀種類別とする時は下の如し。

甲種船長	約百二十人	丙種運轉士	約七百六十人
甲種一等運轉士	同二百十人	機關長	同七十人
甲種二等運轉士	同二百九十人	一等機關士	同二百人
乙種船長	同六十五人	二等機關士	同七十人
乙種一等運轉士	同百六十人	三等機關士	同二百五十人
乙種二等運轉士	同百七十五人	計	二千三百六十人
丙種船長	同五人		

四、船員の減少

船員減少の原因は死亡及び廢業にして其實廢業者の數多しと雖も法規の命する所に従ひ其都度之を届出で免狀を返還する者頗る僅少なるを以て結局統計上の最大數は死亡となる。

死亡の原因は種々雜多なりと雖も最も研究に値するものは遭難に基くものなり。海難に基く船員の死亡數は戰時平時の別に依り、又海運の繁閑に依り、航路の内外に依り、天災地變の有無に依り、船舶の強弱及び海技員の技備の如何等に依り毎年變動ありて一定せずと雖も大體の歸趨を察する爲め先づ少く之が調査を試みむとす。

イ、海難死傷者數

年次	死亡者	負傷者	失踪者	死亡者	負傷者	失踪者	死亡者	負傷者	失踪者	計
明治三十三年	五	一	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 三十四年	三	一	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 三十五年	九	三	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 三十六年	三	一	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 三十七年	九	一	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 三十八年	七	一	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 三十九年	三	一	一	二	七	二	一	一	一	一五
同 四十年	七	九	一	二	七	二	一	一	一	一五